

I 期

政庁

- 南北約 50m
× 東西約 40m
- 儀式などの空間
- 東向き

久留倍官衙遺跡とは…

飛鳥・奈良時代から平安時代の前期（7世紀後半～9世紀末）にかけて、古代朝明郡の役所があった場所。その移り変わりは、I期・II期・III期という大きく3つの時期に分かれる。

長大な建物

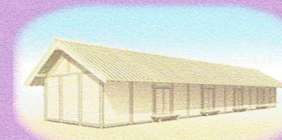
- 遺跡のなかで最大の建物があつた時期

II 期

8世紀中頃～8世紀後半

⑦ 長大な建物1

（半立体の遺構表示）
聖武天皇の東国行幸に関わる可能性があり、南側に広場が広がる建物



長大な建物のイメージ

⑧ 長大な建物2

（半立体の遺構表示）
長大な建物1の北側に位置し、ほぼ同じ大きさであり、税として納められた稲穂が置かれたと考えられる建物



納められていた米（稲穂）のイメージ

久留倍官衙遺跡をもっと深く知るためのキーワード その(2)

しょうむてんのう
聖武天皇の
とうごくぎょうこう
東国行幸
(740年)

① 正殿

（休憩施設をかねた立体の遺構表示）
役所のメインの建物



② 八脚門・堀

（復元展示）
役所の正面玄関



③・④ 脇殿

（半立体の遺構表示）
正殿の左右に位置し、役人たちが、儀式や宴のときに着座したと考えられる建物

⑤ 北倉 ⑥ 南倉

（平面の遺構表示）
文書・調度品・武器などが置かれていたと考えられる倉

久留倍官衙遺跡をもっと深く知るためのキーワード その(1)

じんしんらん
壬申の乱
(672年)

III 期

8世紀後半～9世紀末

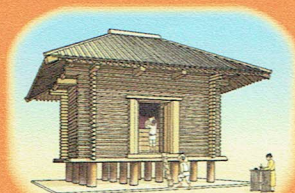
正倉院

・床をもつ倉庫群

⑨～⑮ 正倉

（平面の遺構表示）

税として納められた米などの穀物が置かれていた、床をもつ倉庫
「正倉」とは、古代、おもに公的な施設などに置かれ、穀物や宝物を保管した倉庫のこと



正倉のイメージ

⑯ 正倉院の堀（渠）

（平面の遺構表示）

正倉（⑨～⑮）を取り囲んでいる堀出入口として、数カ所に地面が掘り残されていた
正倉が何棟も建ちならび、堀などで区画されたエリアを、「正倉院」という



正倉院のイメージ

公園でみられるおもな万葉植物

「万葉植物」とは…
奈良時代に成立したと考えられる日本最古の和歌集『万葉集』に詠まれた植物のこと



タチバナ



ヤマブキ



ヒメクチナシ



キキョウ



ウツギ



ノハナショウブ

くるべ古代歴史公園

西入口 北入口 東入口 階段入口

おもいやり駐車場

正殿(あずまや)

八脚門(復元)

万葉植物の植栽があるエリア

史跡範囲

北勢バイパス本線

北勢バイパス側道 上り 下り

地下連絡通路

くるべ古代歴史館